



特集

技術開発研究所所長が語る
未来志向で新たな価値を創出する
自動車用アルミニウム材の研究開発

株主の皆様へ
2018年3月期 上半期報告
2017年4月1日～2017年9月30日

株式会社UACJ

証券コード：5741

グローバルな需要拡大に加えて
地金価格上昇の影響もあり
増収増益となりました。

代表取締役社長 岡田 満

当上半期を振り返って

当期は、2015年度を初年度とする3カ年の中期経営計画「Global Step I」の最終年度となります。この計画は、将来ビジョンの実現に向けた基盤強化のステップと位置づけており、当上半期はその総仕上げとして、引き続きグローバル供給体制の強化を進めました。

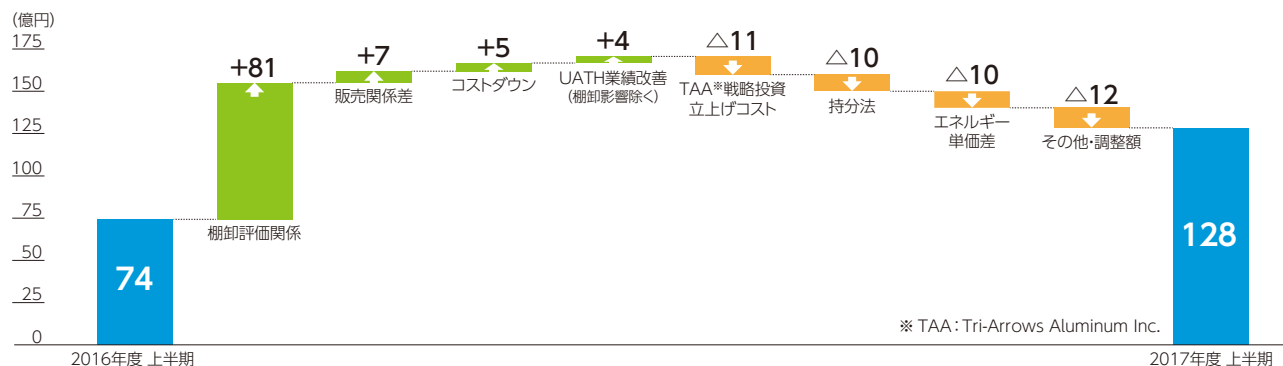
当上半期は、世界的に緩やかな景気回復が続くなか、アルミニウム圧延品業界の国内需要も前年同期を上回りました。こうした市場環境のもと、当社グループの売上数量は、アルミニウム圧延品全体で前年同期並みとなりました。飲料缶分野では、UACJ (Thailand) Co., Ltd. (以下、UATH) ラヨン製造所の販売数量が増加した一方、日本国内の天候不順を起因とするビール類の不調などが影響し、減少しました。自動車分野では、板材・押出材ともに軽量化のためのアルミニウム材の需要増を受けて堅調でした。液晶・半導体製造装置向け

厚板も大幅に伸張しました。

売上高については、アルミニウム圧延品の売上数量が前年同期並みながら、地金価格上昇の影響により増収となりました。伸銅品は、主力であるエアコン用銅管の需要増に加え、地金価格の上昇もあって増収となりました。加工品・関連事業は、UACJ Automotive Whitehall Industries, Inc. (以下、UWH) を2016年4月に買収した影響もあり、同じく増収となりました。これらの結果、全体の売上高は3,019億円(前年同期比8.2%増)となりました。

損益面では、北米での戦略投資による立上げコストなどがあったものの、地金価格上昇にともなう棚卸評価関係の好転に加え、高収益製品が販売好調だったことや、UATHの業績改善、さらには構造改革によるコストダウンの成果により、営業利益は158億円(同52.0%増)、経常利益は128億円(同73.2%増)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は69億円(同216.7%増)と、大幅な増益となりました。

連結経常損益分析



グローバル供給体制のさらなる強化

当社グループは、「世界的な競争力を持つアルミニウムメジャーグループ」の実現に向けて、日本、タイ、北米の3極によるグローバル供給体制を強化しており、当上半期も確かな進捗がありました。

タイ (UATH)

ラヨン製造所における一貫生産が本格化して月産1万トン体制を実現しており、当上半期の月間販売数量も8千~9千トンを維持しています。下半期も毎月1万トン強の販売を見込んでいます。また、2016年11月には第3期工事の実施を発表しており、アジア最大規模となる年間生産能力32万トン体制に向けて、順調に工事が進んでいます。

北米 (TAA、CUA、UWH)

北米では、軽量化を目的とした自動車用アルミニウム材の需要拡大に応えるため、Tri-Arrows Aluminum

Inc.(以下、TAA)、Constellium-UACJ ABS LLC(以下、CUA)、UWHのグループ3社が、それぞれの強みを活かした事業展開を強化しています。

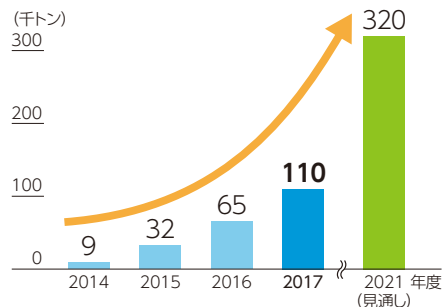
TAAでは主力となる飲料缶の生産規模を維持しながら自動車用母材の生産量を増加しました。CUAでは自動車用パネル材の量産体制を強化しており、当社とコンステリウム社とのタスクチームによる技術支援を実施しています。UWHでは、構造材の需要増加に対応するため最新鋭押出機の導入を進めています。

日本

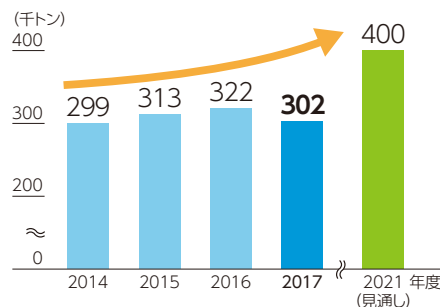
日本国内では、引き続き堅調な需要が見込まれる自動車用パネル材の生産能力を高めるため、福井製造所において、パネル材専用の熱処理設備と表面処理設備の新設を2017年10月に決定しました。

新規設備は2020年1月の稼働開始を予定しており、これにより自動車用パネル材の生産能力は年間約10万トンアップする見込みです。

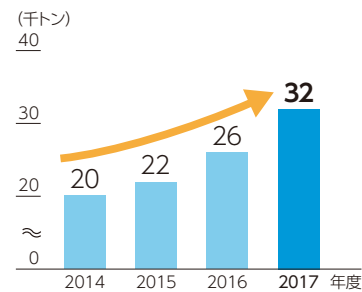
UATH 年間販売量



TAA 年間販売量



国内自動車用パネル材 年間販売量



今後の見通しと取り組み方針、 株主還元について

前述の通り、当期は3カ年の中期経営計画「Global Step I」の最終年度であり、下半期以降もこの計画に基づき、将来ビジョンの実現に向けた基盤強化のための取り組みを継続していきます。

通期の業績については、液晶・半導体製造装置向け厚板や自動車向け板材・押出材が好調であるものの、2017年5月発表当初から外部・内部環境ともに変化があるため、トータルでは見通しに変更はありません。業績予想としては、期首に掲げた通り、売上高6,300億円、営業利益360億円、経常利益300億円、親会社株主に帰属する当期純利益170億円と、増収増益を見込んでいます。

株主の皆様への配当については、中間期は1株につき3円(株式併合後換算30円)を実施し、期末30円を予定しています(詳細はP14をご参照ください)。

指名・報酬諮問委員会の構成員

| | | |
|-----|-------|-----------|
| 委員長 | 山内 重徳 | 代表取締役会長 |
| 委員 | 岡田 満 | 代表取締役社長 |
| | 鈴木 俊夫 | 独立社外取締役 |
| | 杉山 涼子 | 独立社外取締役 |
| | 浅野 明 | 独立社外監査役 |
| | 曾根 貴史 | 元 当社社外監査役 |

委員の半数以上
は独立社外取締
役または独立社
外監査役

なお、来期からは、将来ビジョンの実現に向けた第2フェーズとなる次期中期経営計画「Global Step II」(2018～2020年度)がスタートします。この計画は成長加速のステップと位置づけていますが、グローバル企業としての成長を実現するには、単に売上規模を拡大するだけでなく、企業体としての質的なレベルアップも図っていく必要があると考えています。

その一環として、これまでも取り組んできたコーポレート・ガバナンスの強化をさらに推し進めるため、2017年10月に「指名・報酬諮問委員会」の設置を発表しました。この委員会は、取締役や執行役員の指名、報酬などの決定プロセスについて、客観性や透明性の向上を図るための諮問機関です。委員会の構成員は別表の通りですが、半数以上を独立社外取締役または独立社外監査役とすることで、公正かつ透明な意志決定プロセスを徹底していきます。

次期中期経営計画においても、引き続きコーポレート・ガバナンスの強化に努め、お客様や株主の皆様をはじめとしたステークホルダーから、そしてグローバル社会からの確かな信頼を獲得していきたいと考えています。

株主の皆様には、今後のUACJグループの成長にご期待いただくとともに、引き続きご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

特集 技術開発研究所所長が語る

未来志向で新たな価値を創出する 自動車用アルミニウム材の研究開発

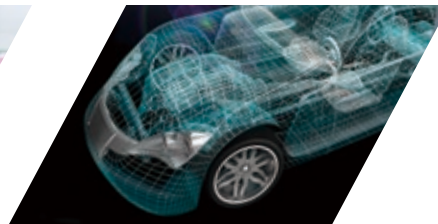
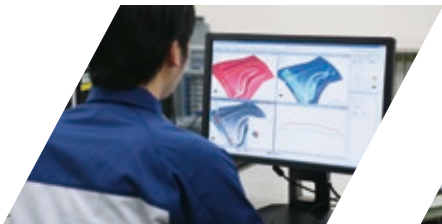
軽量化や電動化といった“自動車の進化”に適した素材として、アルミニウムの採用が進んでいます。ここでは、自動車の未来を見据え、アルミニウムのさらなる活躍の場を開拓していくUACJの取り組みを、技術開発研究所の渋江和久所長が語ります。



取締役兼専務執行役員
技術開発研究所所長
渋江 和久

電気自動車化を見据えた 一歩先をいく部材開発

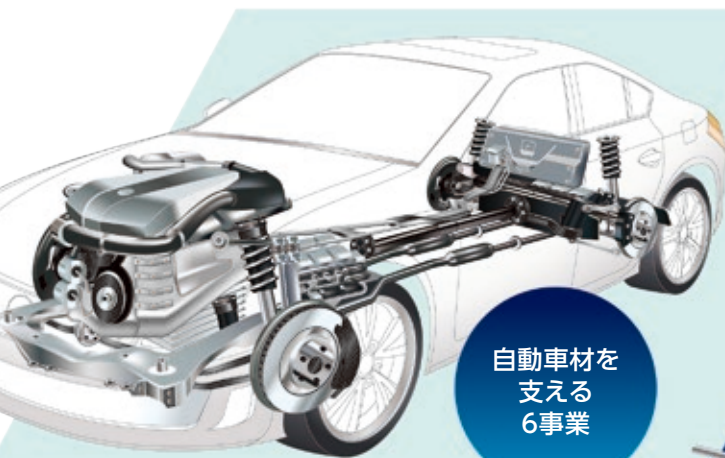
自動車に対する環境規制の強化を受けて、軽量化に続いて電動化の流れが加速しています。電気自動車(EV)は、エンジン駆動の自動車とは構成する部材が異なり、今後の普及とともにEVならではの部材開発ニーズも高まっています。また、EV分野では既存の自動車メーカーだけでなく新規参入も活発化しており、部材メーカーにとっても市場開拓の機会になると期待できます。UACJグループは、こうした自動車産業の変化を大きなビジネスチャンスと捉え、EV用アルミニウム材の研究開発を強化。リチウムイオン電池の電極用アルミニウム箔や電池ケース用アルミニウム合金板といった蓄電池関連部材、航続距離を確保するためのより軽量の構造材など、EVのニーズを見据えた部材を開発しております。



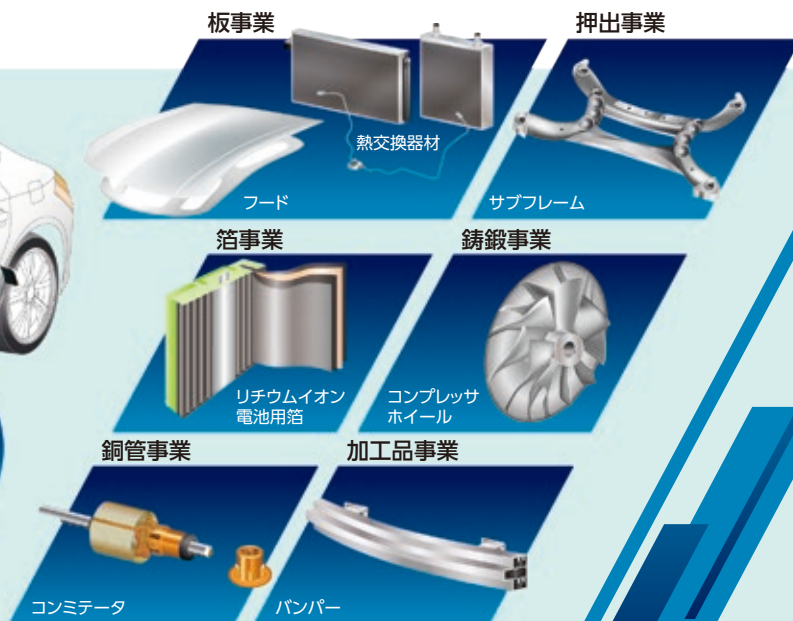
新素材・新生産技術の研究開発で 新たな価値を創出する

アルミニウムの需要をさらに拡大するには、用途開拓やコストダウンを図っていく必要があります。UACJでは、たとえば大手自動車部品メーカーと共同で、生産

性向上とコストダウンに貢献する新たな接合技術を開発。さらに、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の主催する産学協同プロジェクトに参画し、アルミニウムのコスト競争力を高める精錬プロセスの開発に取り組んでいます。今後も、こうした研究開発を通じて、アルミニウムの新たな価値を創出していきます。



自動車材を支える
6事業



連結貸借対照表

単位：百万円(四捨五入)

| 科目 | 期別 | 前連結会計年度 (2017年3月31日) | 当第2四半期 連結会計期間 (2017年9月30日) |
|--------------|----|-------------------------|----------------------------------|
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | | 305,563 | 319,825 |
| 固定資産 | | 419,880 | 433,384 |
| 有形固定資産 | | 305,467 | 323,178 |
| 無形固定資産 | | 67,390 | 64,355 |
| 投資その他の資産 | | 47,023 | 45,851 |
| 資産合計 | | 725,443 | 753,209 |
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | | 237,650 | 252,641 |
| 固定負債 | | 289,433 | 295,805 |
| 負債合計 | | 527,083 | 548,446 |
| 純資産の部 | | | |
| 株主資本 | | 174,605 | 180,004 |
| その他の包括利益累計額 | | 9,485 | 10,433 |
| 非支配株主持分 | | 14,270 | 14,325 |
| 純資産合計 | | 198,360 | 204,763 |
| 負債純資産合計 | | 725,443 | 753,209 |

連結損益計算書

単位：百万円(四捨五入)

| 科目 | 期別 | 前第2四半期 連結累計期間 (2016年4月1日～ 2016年9月30日) | 当第2四半期 連結累計期間 (2017年4月1日～ 2017年9月30日) |
|------------------|----|--|--|
| 売上高 | | 278,863 | 301,854 |
| 売上原価 | | 242,923 | 259,089 |
| 売上総利益 | | 35,940 | 42,766 |
| 販売費及び一般管理費 | | 25,547 | 26,971 |
| 営業利益 | | 10,394 | 15,794 |
| 営業外収益 | | 1,315 | 1,544 |
| 営業外費用 | | 4,320 | 4,538 |
| 経常利益 | | 7,389 | 12,800 |
| 特別利益 | | 119 | 316 |
| 特別損失 | | 992 | 519 |
| 税金等調整前四半期純利益 | | 6,516 | 12,597 |
| 法人税等 | | 3,913 | 5,469 |
| 四半期純利益 | | 2,603 | 7,128 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | | 437 | 268 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | | 2,166 | 6,860 |

連結包括利益計算書

単位：百万円(四捨五入)

| 科目 | 期別 | 前第2四半期 連結累計期間 (2016年4月1日～ 2016年9月30日) | 当第2四半期 連結累計期間 (2017年4月1日～ 2017年9月30日) |
|----------|----|--|--|
| 四半期純利益 | | 2,603 | 7,128 |
| その他の包括利益 | | △ 16,155 | 992 |
| 四半期包括利益 | | △ 13,552 | 8,120 |

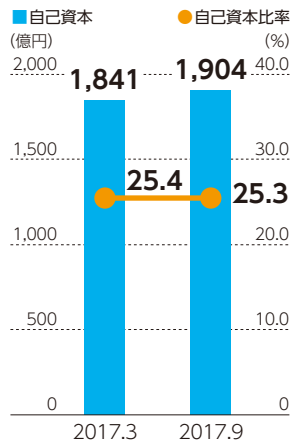
連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円(四捨五入)

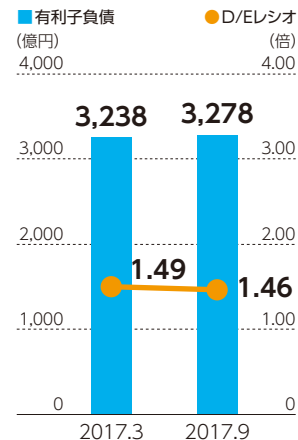
| 科目 | 期別 | 前第2四半期 連結累計期間 (2016年4月1日～ 2016年9月30日) | 当第2四半期 連結累計期間 (2017年4月1日～ 2017年9月30日) |
|--|----|--|--|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | | 21,634 | 7,140 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ | 37,593 | 28,670 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | | 13,038 | 2,169 |
| 現金及び現金同等物に係る 換算差額 | △ | 189 | 75 |
| 現金及び現金同等物の 増減額(△は減少) | △ | 3,111 | 19,436 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | | 18,814 | 41,125 |
| 連結の範囲の変更に伴う 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | | 33 | — |
| 現金及び現金同等物の 四半期末残高 | | 15,736 | 21,690 |

主要連結経営指標

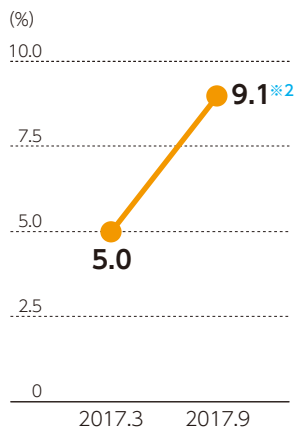
自己資本／自己資本比率



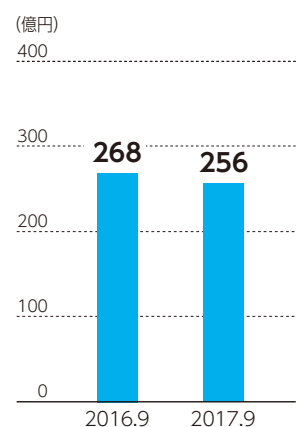
有利子負債／D/Eレシオ^{※1}



ROE



Adjusted EBITDA^{※3}



※1 劣後ローンの資本性考慮後

※2 年間ベース換算値

※3 Adjusted EBITDA: EBITDA－棚卸評価関係

会社データ

| | |
|-------------|---|
| 名称 | 株式会社UACJ (英文名:UACJ Corporation) |
| 事業内容 | アルミニウム・銅等の非鉄金属及びその合金の 圧延製品・鋳物製品・鍛造製品並びに加工品の 製造・販売など |
| 資本金 | 522億77百万円 |

役員一覧

| | | |
|------------|----------------|-------|
| 取締役 | 代表取締役会長 | 山内 重徳 |
| | 代表取締役社長兼社長執行役員 | 岡田 満 |
| | 取締役兼専務執行役員 | 中野 隆喜 |
| | | 渋谷 和久 |
| | 取締役兼常務執行役員 | 田中 清 |
| | | 長谷川 久 |
| | | 石原 美幸 |
| | | 種岡 瑞穂 |
| | | 手島 雅裕 |
| | 取締役(社外、非常勤) | 鈴木 俊夫 |
| 監査役 | 常勤監査役 | 杉山 涼子 |
| | 監査役(社外、非常勤) | 石原 宣宏 |
| | | 浅野 明 |
| | | 佐藤 哲哉 |
| | | 松村 篤樹 |

拠点一覧

| | |
|--------------|---|
| 本社 | 東京都千代田区大手町1丁目7番2号 東京サンケイビル |
| 製造所 | 名古屋(愛知県)/福井(福井県)/ 深谷(埼玉県)/日光(栃木県) |
| 支社・支店 | 中部支社(愛知県)/関西支社(大阪府)/ 九州支社(福岡県) 北海道支店(北海道)/静岡支店(静岡県) |
| 研究所 | 技術開発研究所(愛知県) |

| | | |
|-------------|--------|------------------------------------|
| 執行役員 | 専務執行役員 | 土屋 博範 |
| | 常務執行役員 | 清水 洋二 福井 裕之 新堀 勝康 |
| 執行役員 | | 山口 明則 |
| | | 阿部 禎一 |
| | | 川島 輝夫 |
| | | 田口 正高 |
| | | 今泉 明人 |
| | | 松下 彰 |
| | | 稲垣 公樹 |
| | | 吉田 明典 |
| | | 細見 和弘 |
| | | 大谷 隆英 |
| | | 竹川 幸男 桑本 由紀浩 Henry Gordinier |

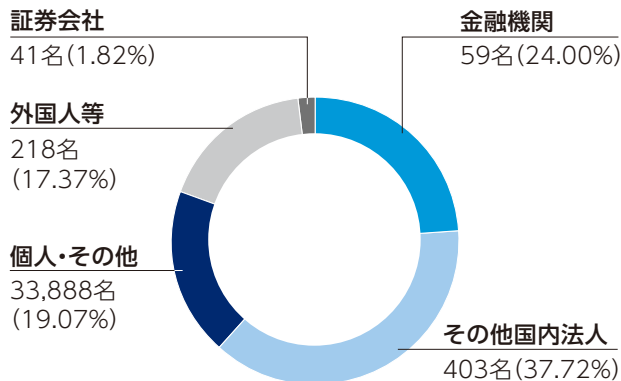
基本情報 (2017年10月1日現在)

| | |
|----------|--|
| 上場市場 | 東証 |
| 証券コード | 5741 |
| 株式の売買単位 | 100株 |
| 発行可能株式総数 | 170,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 48,328,193株 |
| 株主数 | 34,609名 |
| 決算期日 | 3月31日 |
| 定時株主総会 | 6月下旬 |
| 株主確定基準日 | 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 |
| 株主名簿管理人 | みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 |
| 公告方法 | 電子公告 http://www.uacj.co.jp/ (やむを得ない事由により、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します) |

大株主 (2017年9月30日現在)

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株数比率(%) |
|---|---------|----------|
| 古河電気工業株式会社 | 120,365 | 24.90 |
| 新日鐵住金株式会社 | 37,446 | 7.74 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 23,217 | 4.80 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 18,560 | 3.84 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 13,415 | 2.77 |
| CREDIT SUISSE SECURITIES (EUROPE) LIMITED PB OMNIBUS CLIENT ACCOUNT | 9,377 | 1.94 |
| GOLDMAN, SACHS & CO. REG | 7,850 | 1.62 |
| 住友商事株式会社 | 7,500 | 1.55 |
| 株式会社みずほ銀行 | 7,331 | 1.51 |
| 株式会社三井住友銀行 | 7,330 | 1.51 |

所有者別の構成比率(株式数比率) (2017年9月30日現在)



空飛ぶアルミニウム

軽いアルミニウムが空と宇宙で大活躍

大空を行く航空機や、宇宙空間で活躍するロケットや人工衛星には、飛行性能や燃費を高めるための軽量化が欠かせません。一方で、地上よりもはるかにハードな環境にさらされることから、過酷な環境に耐えうるだけの強度も求められます。こうした、一見、相反する特性を併せ持った素材として選ばれているのが、アルミニウムです。航空機では、胴体や翼の外板、ホイールや窓枠、エンジン内の精密部品などに幅広く使用されています。ロケットでは、機体の大半を占める燃料タンクをはじめ、接合部や補強材などにもアルミニウムがふんだんに用いられ

ています。また、宇宙ステーションの骨組みや宇宙飛行士が活動する部屋などもアルミニウムでつくられており、今やアルミニウムは、空でも宇宙でも欠かせない素材となっているのです。



燃料タンクにアルミニウムが
使用されているJAXAのH-IIA
ロケット



大きな期待を背負う優秀素材

飲料缶やレトルトパウチなどの身近なアルミニウムの用途から、「軽いのはわかるけれど、強度は大丈夫?」と思われるかもしれません。もちろん、航空機やロケットに使われるアルミニウムは、よく見かける用途のものとは違います。他の物質と混ぜ合わせれば強度を増すという性質を利用して、非常に剛性の高いアルミニウム合金が開発されています。さらに、加工しやすく複雑な形状にも対応でき、修理やメンテナンスも容易であるなど、多様なメリットから、アルミニウムは早くから航空機の構造材や部品に採用され、現在も広く世界中で活躍しています。



航空機用ホイール



航空機用翼用桁



Close Up

航空・宇宙分野における 絶対的認証規格 AS9100

航空・宇宙分野は法的な規制や管理が厳しく、人命を守るためにも高い安全性が要求されます。この分野における国際的な認証規格として広く認知されているのが、航空宇宙産業向け品質マネジメントシステム規格「AS9100」です。この認証を国内の軽圧業界で初めて取得したのがUACJの福井製造所です。以来、他の主要製造所でも順次取得しており、信頼と安心を供給する素材メーカーとしての地位を確かなものにしていきます。

Tri-Arrows Aluminum Inc. ●

(ローガン工場)

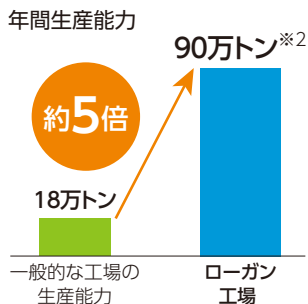


ローガン工場

このコーナーでは、国内外の拠点について紹介しています。
今回は、2011年から当社グループに加わった
北米のTri-Arrows Aluminum Inc. / ローガン工場を紹介します。

グローバル企業グループとしての一大拠点

Tri-Arrows Aluminum Inc. (以下、TAA) は、缶材生産効率で世界一を誇るローガン工場を運営しており、“缶材のグローバルプレーヤー”である当社グループにおいて重要な役割を担っています。一方で、近年は自動車用パネル材の母材生産にも注力し、同じく米国子会社であるCUA^{※1}に供給。TAAは、世界最大の飲料缶市場にして需要旺盛な自動車市場でもある北米の主要拠点として、当社グループのグローバル戦略を支えています。



※1 Constellium-UACJ ABS LLC

※2 TAAが所有するラインは30万トン

リサイクルで環境保護にも貢献

米国では1分間に12万7,000缶がリサイクルされており、ローガン工場も原材料の約80%がリサイクルされたアルミニウムを使用しています。また、高効率な鋳造炉を活用して、工場内外で発生するスクラップを再利用しています。2016年には鋳造ラインへのさらなる設備投資を決定しており、生産能力の向上はもちろん、リサイクル推進にも貢献が期待されています。



由来は日本？ TAAに秘められた想い

「Tri-Arrows」という社名は、日本に伝わる“3本の矢”の教えに由来します。「日本人・アメリカ人・その他の国の人々」「ローガン工場・日本の工場・タイの工場」など、3つの力を合わせることで強い会社を目指すという想いが込められています。



株主プラザ

Stockholder Plaza

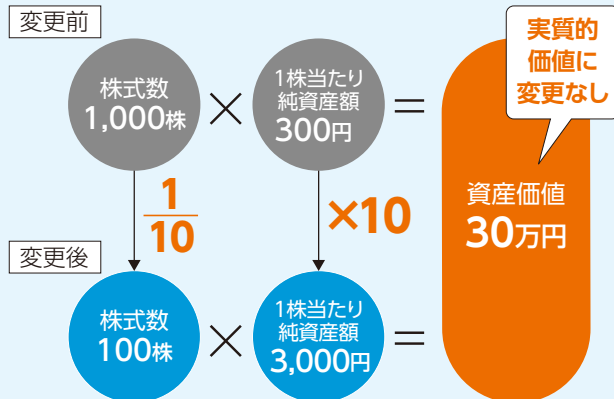
株主の皆様とのコミュニケーションの場として、最新の情報を発信します。



単元株式数の変更について

近年、全国の証券取引所において、株式売買の利便性向上と市場の活性化を目的に、上場企業の株式を100株単位に統一するという計画が進められています。この趣旨を尊重し、当社も2017年10月1日より単元株式数を1,000株から100株に変更し、あわせて10株を1株にするという株式併合を行いました。

この変更にとまなう株主の皆様への影響はなく、お手続きも一切不要です。株式数は10分の1になりますが、同時に1株当たりの純資産額が10倍になりますので、ご所有の株式の実質的価値や配当金に変更はありません。



タイ国副首相と会談

海外主要拠点の一つ、UACJ (Thailand) Co., Ltd. (以下、UATH) が位置するタイ国の副首相ソムキット・チャトゥシーピタック氏が来日され、当社代表取締役会長山内重徳と2017年6月6日に会談を行いました。

UATHは、2014年に操業を開始したアジア最大規模のアルミニウム板圧延の一貫生産工場で、缶材供給などの事業側面に加え、雇用創出や技術人材の育成など、さまざまな側面から現地経済に貢献しています。この会談では、副首相から直々に感謝と激励のお言葉をいただくとともに、今後も両国産業界の発展に寄与していくことを確認しました。



表紙の写真について



アルミニウム業界において今、最もホットな分野である自動車材分野。自動車軽量化に加えて、電気自動車向けに新たな部材が求められるなど、需要拡大が続いている分野です。今号の表紙写真は、特集で取り上げている、その研究開発。従来から採用されている鉄や軽さで注目される炭素繊維などライバルが多いなか、これらに勝つべく、研究員たちが日々奮闘しています。

株式会社UACJ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目7番2号
東京サンケイビル
Tel. 03-6202-2600(代表) Fax. 03-6202-2021
<http://www.uacj.co.jp/>



単元未満株式の買取制度のご案内

当社では、単元株制度を採用しており、1単元は100株とさせていただきます。

単元未満株式(1~99株)は議決権がなく、また証券市場にて売買することができません。

単元未満株式につきましては、法律および当社定款・株式取扱規則の規定に基づき単元未満株式の買取制度をご利用いただけます。

※2017年12月31日までの期間限定で、単元未満株式の買取請求に際して当社にお支払いいただく**買取手数料を無料**としていますが、**2018年6月30日まで延長**いたします。

証券口座に株式をご所有の株主様

お取引の証券会社にお問い合わせください。

特別口座に株式をご所有の株主様

下記の通り、お問い合わせください。

●旧住友軽金属工業の株式をお持ちであった株主様

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)

●旧古河スカイの株式をお持ちであった株主様

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)

確定申告の際には、同封の配当金計算書をご利用いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主様については、お取引の証券会社にご確認ください。